

平成28年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

平成28年12月（平成26年から毎年12月に実施）

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	3,032人	(抽出率6.0%)	}	合計	7,835人	(抽出率5.7%)
中学校	3,014人	(抽出率5.9%)				
高等学校	1,789人	(抽出率5.1%)				

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホ等とは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、ライン、ツイッター、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

平成29年4月

岡山県教育庁義務教育課
生徒指導推進室

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概要 〉

① スマホ等の所持率

自分のスマホ等を持っている割合は、小学生31.6%、中学生53.2%、高校生97.4%であり、平成26年度と比べて、小学生と高校生は同程度であったが、中学生で増加している。

② 長時間利用の割合

スマホ・ゲーム機等を利用する児童生徒のうち、平日1日に平均3時間以上利用している割合は、小学生15.5%、中学生22.5%、高校生34.6%であり、平成26年度と比べて、すべての校種で減少している。

③ 部活動所属別の利用時間

中・高校生ともに部活動に所属していない生徒の方が所属している生徒に比べ、長時間利用(3時間以上)の割合が10～15ポイント高くなっている。

④ ネット等の利用率

普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小学生57.7%、中学生78.8%、高校生95.5%であり、平成26年度と比べて同程度である。
※小(ゲーム:77.9%)、中(ライン:80.0%)、高(ライン:95.1%)が最も利用割合が高い。

⑤ 日常生活への影響

スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために「日常生活で減った時間がある」と答えた割合は、小学生23.6%、中学生36.6%、高校生46.5%であり、平成26年度と比べて、すべての校種で増加している。※自分専用のスマホ等を所持している方が、その割合は高い。

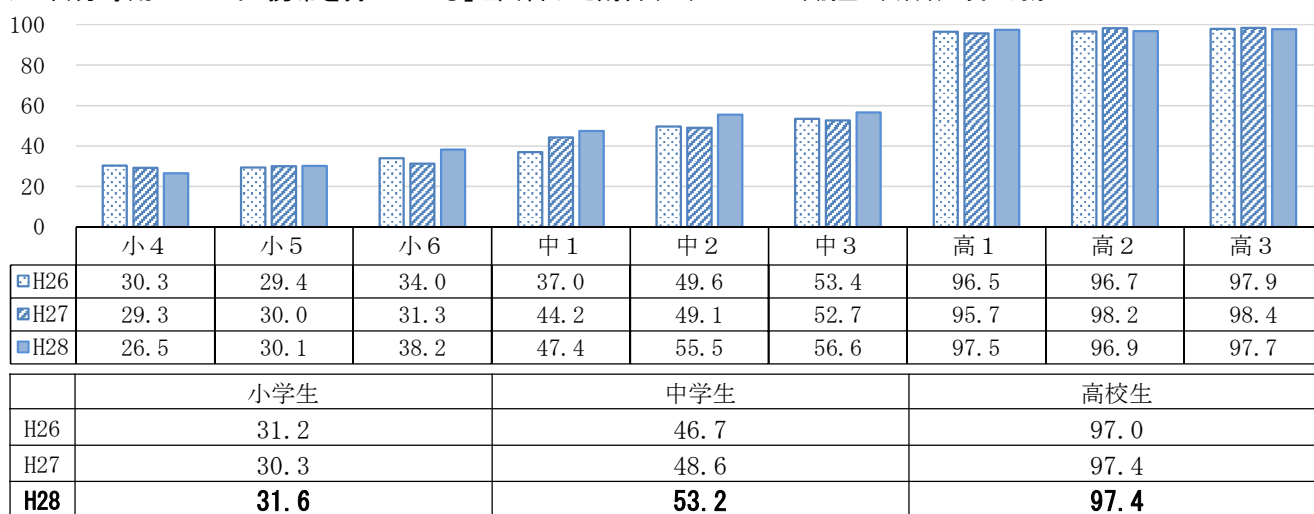
⑥ ネット依存傾向

ネット依存の傾向について、「高い」と判定された児童生徒の割合は、小学生0.7%、中学生2.4%、高校生3.5%となっている。また、依存傾向別にスマホ等の利用時間を比較すると、依存傾向の高い方が、利用時間の長い児童生徒の割合が高くなっている。

① 自分のスマホ等を持っているか

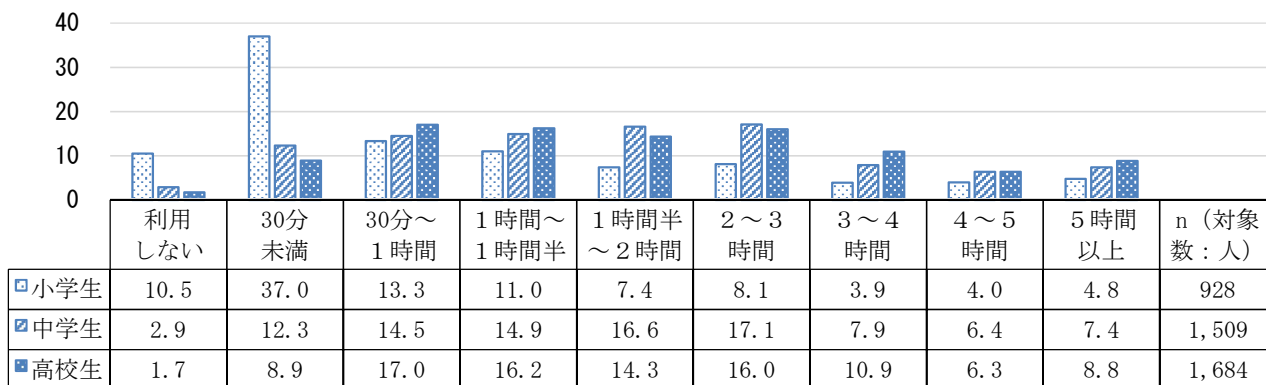
◆「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>



② 平日1日当たり、どれくらいスマホ等を利用しているか

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>



※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホ・携帯、パソコン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ゲーム機等、すべての情報機器端末の利用時間の合計を「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	H28	対H26年増減	n (H28対象数:人)
小学生	15.8	13.9	15.5	-0.3	3,032
中学生	25.0	23.9	22.5	-2.5	3,014
高校生	39.0	33.8	34.6	-4.4	1,789

<参考>利用時間の全国比較

平日1日当たり2時間以上、スマホやゲーム等を利用する児童生徒の割合(%)

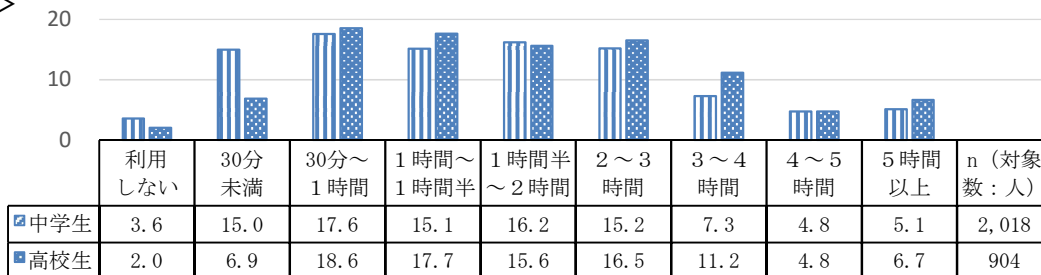
	岡山県	全国
小学生	26.5	32.5
中学生	41.5	51.7
高校生	52.5	76.7

全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 H28.11】による。

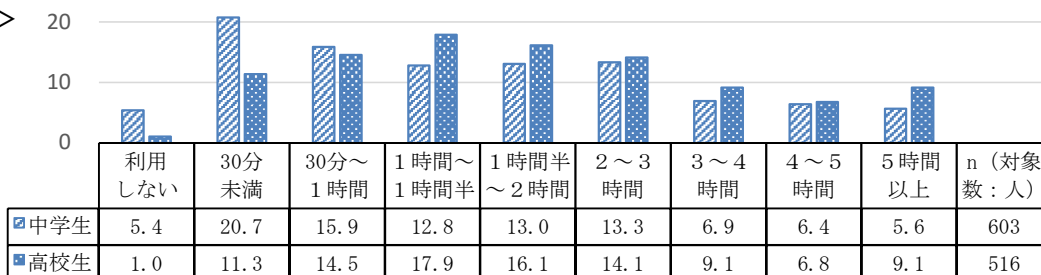
③ 「所属する部活動」別に見た、平均1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

<中学生・高校生全員が対象>

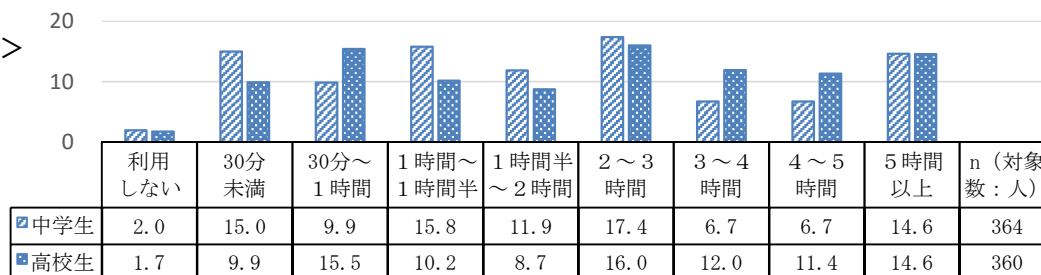
<運動部>



<文化部>



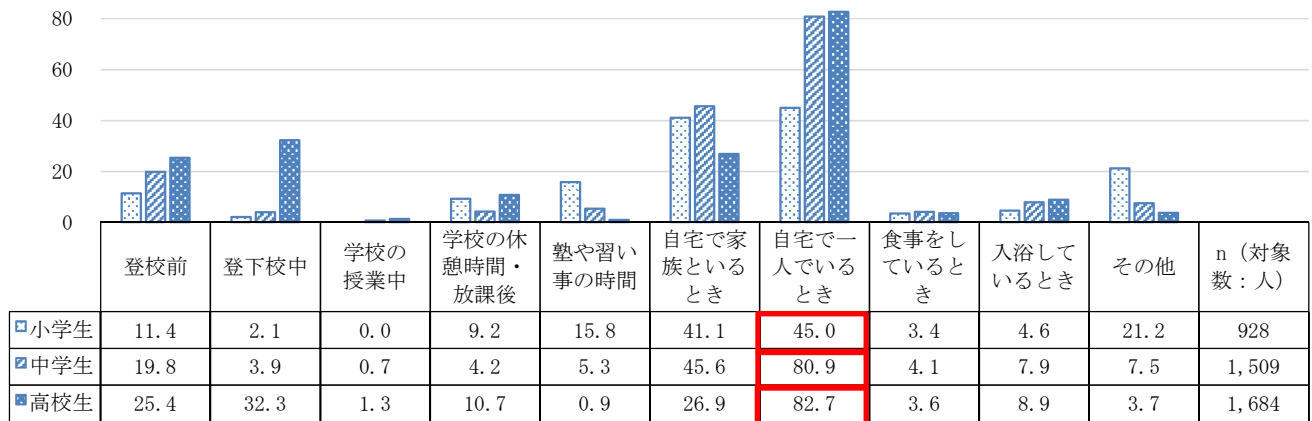
<所属なし>



スマホ等をよく利用するのはどんな時か 【複数回答】

◆ スマホ等の利用時間帯別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

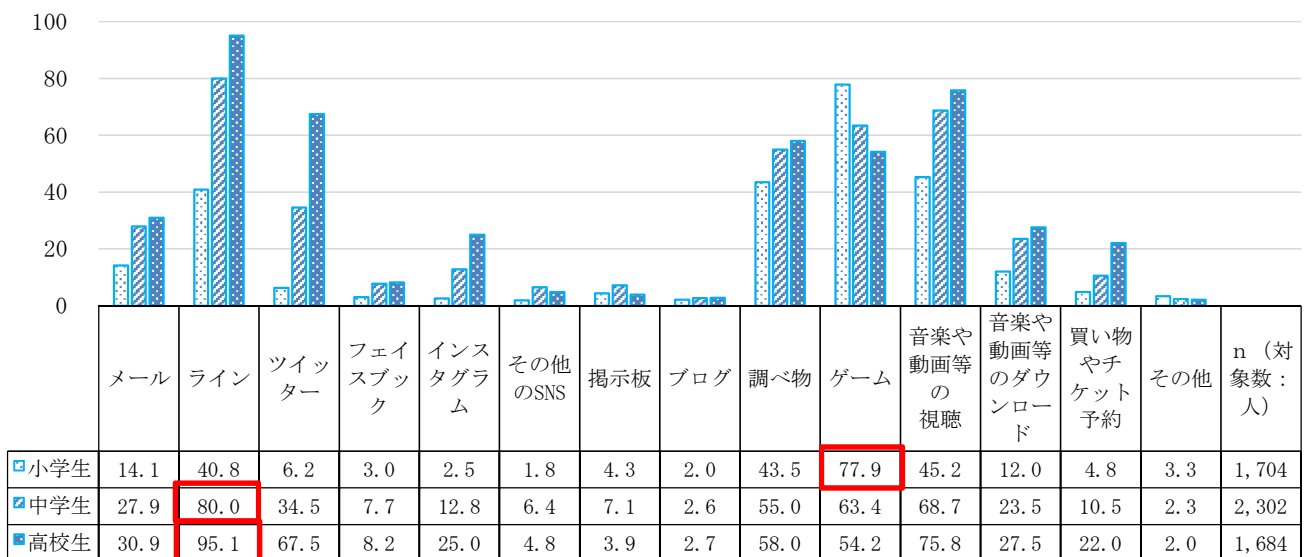
◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用している」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	H28	対H26年増減	n (H28対象数：人)
小学生	58.0	57.2	57.7	-0.3	3,032
中学生	77.2	78.0	78.8	+1.6	3,014
高校生	95.8	95.3	95.5	-0.3	1,789

◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

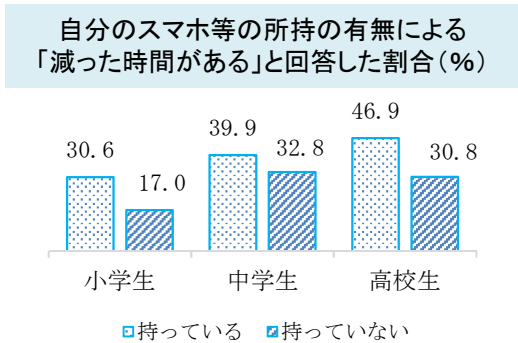


<参考>ネットの利便性に関する項目例「調べ物」の割合(H27) 小:39.1%、中:54.5%、高:51.0%

⑤ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために日常生活で減った時間があるか

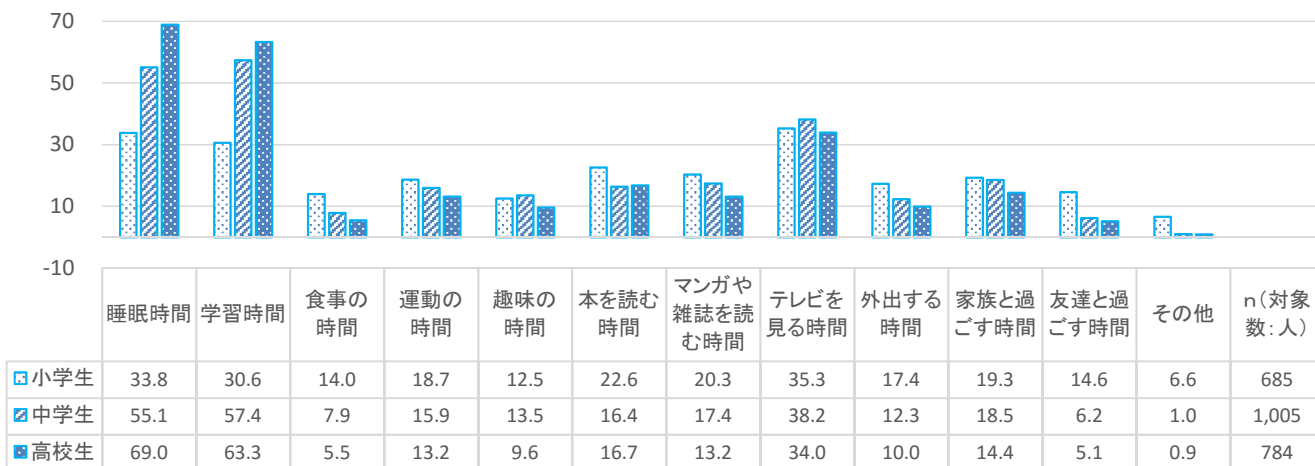
◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	H28	対H26年 増減	n (H28対象数:人)
小学生	22.5	23.7	23.6	+1.1	3,032
中学生	33.9	39.1	36.6	+2.7	3,014
高校生	40.1	43.5	46.5	+6.4	1,789



◆ 具体的に減った時間(%)【複数回答】

<情報機器端末などの利用のために「減った時間がある」と回答した児童生徒が対象>



- 【小学生】 ①テレビを見る時間 (35.3) ②睡眠時間 (33.8) ③学習時間 (30.6)
- 【中学生】 ①学習時間 (57.4) ②睡眠時間 (55.1) ③テレビを見る時間 (38.2)
- 【高校生】 ①睡眠時間 (69.0) ②学習時間 (63.3) ③テレビを見る時間 (34.0)

◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した利用時間別の割合(%)

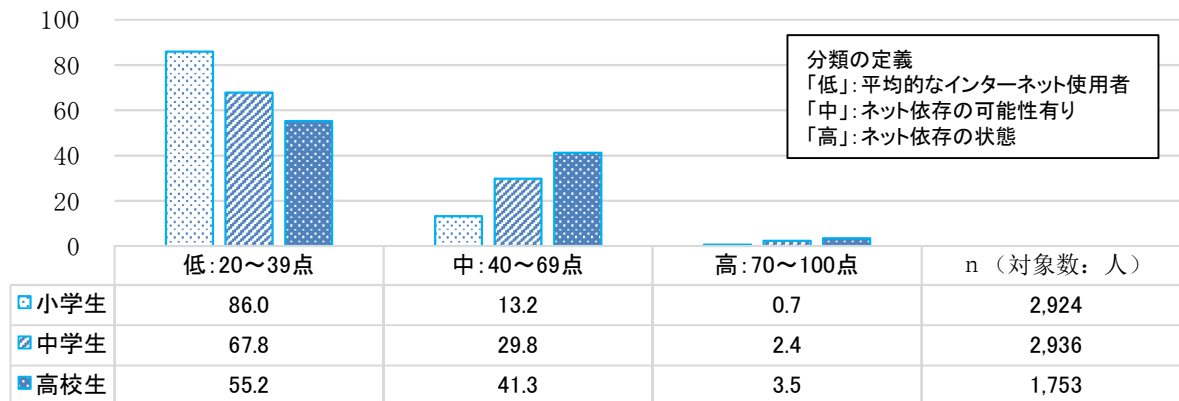
<自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

	小学生				中学生				高校生			
	H26	H27	H28	対H26年 増減	H26	H27	H28	対H26年 増減	H26	H27	H28	対H26年 増減
0～1時間	21.9	22.7	23.3	+ 1.4	31.7	33.8	33.6	+1.9	32.2	32.4	40.4	+8.2
1～3時間	34.2	35.7	38.9	+ 4.7	40.0	42.6	40.4	+0.4	42.5	44.9	51.1	+8.6
3時間以上	37.0	47.4	49.5	+12.5	41.7	58.6	47.5	+5.8	43.3	51.3	46.2	+2.9

⑥ ネット依存の傾向はどのようになっているか

◆ ネット依存の傾向別に見た児童生徒の割合(%)

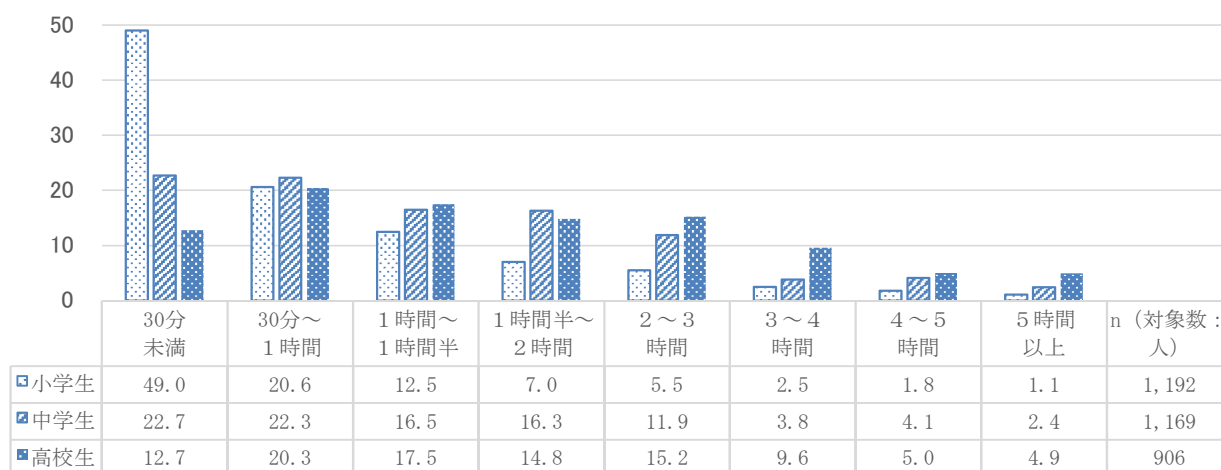
※ ネット依存傾向の調査項目の合計による判定(低:20~39点、中:40~69点、高:70~100点)



分類の定義
 「低」: 平均的なインターネット使用者
 「中」: ネット依存の可能性有り
 「高」: ネット依存の状態

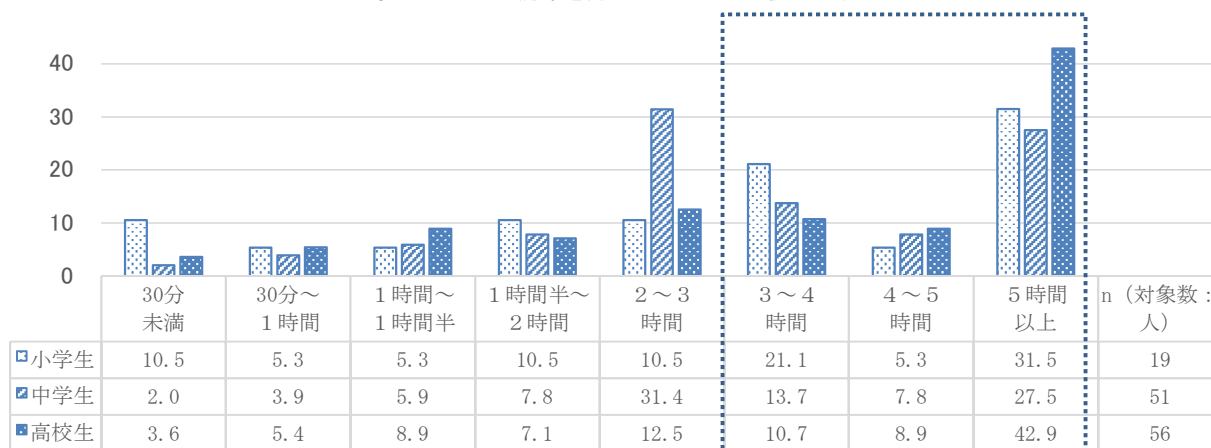
◆ 依存傾向別に見た、スマホ等の利用時間別割合(%)

「依存傾向(低)」 < 自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答 >



※ 例えば、2~3時間は、2時間から3時間未満を表す。

「依存傾向(高)」 < 自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答 >



※ 例えば、2~3時間は、2時間から3時間未満を表す。

【参考】 ネット依存の定義等

- ネット依存とは、アルコール、薬物、ギャンブル等に対する依存症と同じように、インターネットを使用せずにはいられなくなる病的な状態を指す。
- ネット依存の傾向を図る手法としては、アメリカのピッツバーグ大学キンバリー・ヤング准教授が提唱した20項目、簡易版の8項目が代表的な手法である。

【本調査で使用したネット依存傾向を測定する項目】(キンバリー・ヤング准教授が提唱した20項目参考)

- 1 気がつくと、思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- 2 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- 3 家族や友だちと過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- 4 ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
- 5 まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- 6 ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- 7 ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある。
- 8 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE(ライン)やTwitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、メールなどをチェックすることがある。
- 9 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- 10 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- 11 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- 12 ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- 13 ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- 14 夜遅くまでネット等に関わるのが原因で、睡眠時間が短くなっている。
- 15 ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- 16 ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- 17 ネット等をする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- 18 ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- 19 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- 20 ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

※アンケート項目の尺度

「いつもある(5点)」「よくある(4点)」「時々ある(3点)」「まれにある(2点)」「全くない(1点)」の中から選択し、それぞれの得点を合計し算出する。20項目に回答するため、最低20点、最高100点となる。

※ネット依存傾向の判断基準 「低」20～39点 「中」40～69点 「高」70～100点

(独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より)

(2) スマホやネットなどを介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小学生9.5%、中学生21.5%、高校生17.1%であり、平成26年度と比べて、小学生と中学生で増加している。※小・中は「チェーンメールを送られた」、高は「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」が最も多い。

② 「悩みや不安を感じている」割合

割合ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることがある」と答えた割合は、小学生8.3%、中学生17.5%、高校生18.5%であり、平成26年度と比べて、小学生と高校生で減少している。※小は「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」、中・高は「自分の書き込みがあれでよかったかなどと後で悩む」が最も多い。

③ フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、平成26年度と比べて、高校生は増加しているが、小学生では減少している。

④ 画像のやりとりの経験率

面識のない人との間で画像のやりとりを行った経験のある割合が、小学校で3.0%、中学校で8.5%、高校生で12.4%である。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

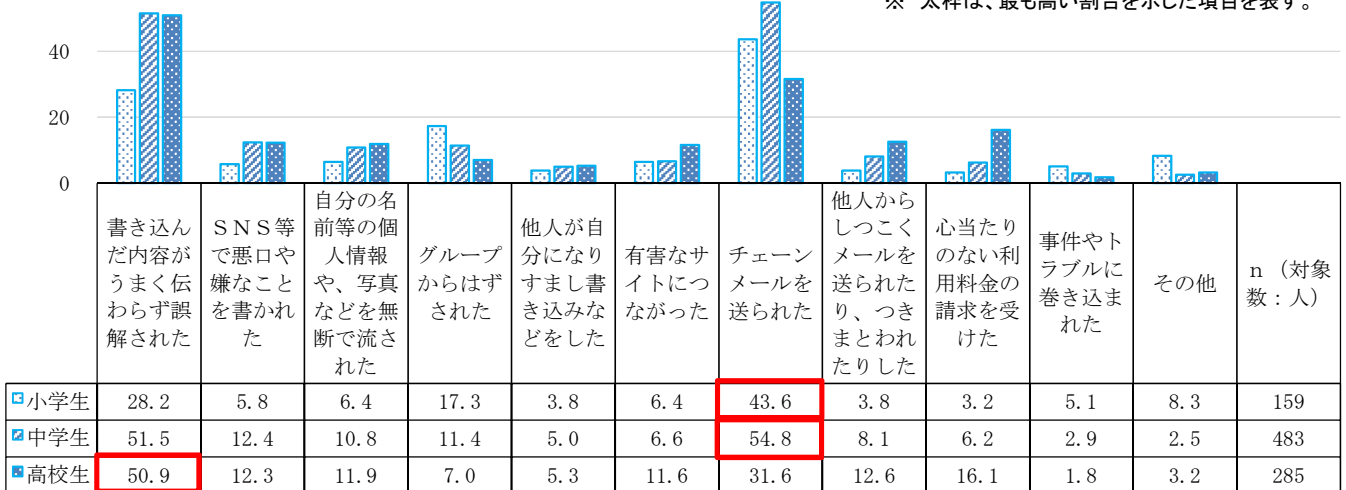
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H26	H27	H28	対H26年増減	n (H28対象数：人)
小学生	8.0	7.6	9.5	+1.5	1,704
中学生	15.9	19.3	21.5	+5.6	2,302
高校生	18.3	17.8	17.1	-1.2	1,684

◆ 「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

＜ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)

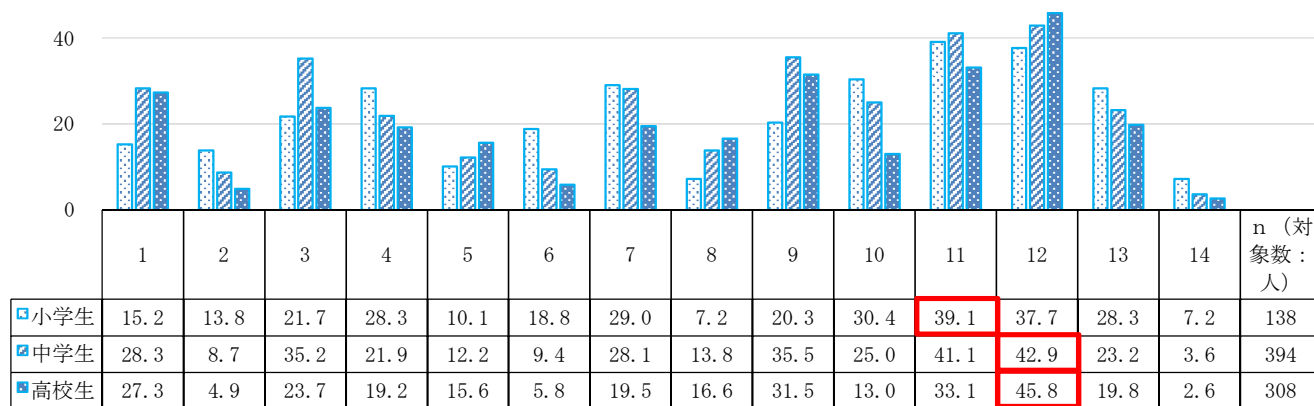
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H26	H27	H28	対H26年増減	n (H28対象数：人)
小学生	9.4	8.3	8.3	-1.1	1,704
中学生	17.1	17.8	17.5	+0.4	2,302
高校生	21.7	17.6	18.5	-3.2	1,684

◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%)【複数回答】

＜ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



- 1 利用しているコミュニケーションサービス内の人間関係
- 2 ひんぱんにメッセージを投稿しなければいけないような気がする
- 3 友だちのメッセージをチェックすること
- 4 自分の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む
- 5 他人の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む
- 6 悪意のあるコメントや荒らしがくること
- 7 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる
- 8 知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと
- 9 メッセージを読んだことがわかる機能(既読チェックなど)があること
- 10 メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと
- 11 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと
- 12 自分の書き込みがあれでよかったかなどで後で悩む
- 13 自分の書いたメッセージに反応がないこと
- 14 その他

③ フィルタリングを設定しているか

◆ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%)

＜自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答＞

	設定している			設定していない			わからない			n (H28対象数：人)
	H26	H27	H28	H26	H27	H28	H26	H27	H28	
小学生	48.6	44.7	39.9	9.5	11.1	10.7	41.8	44.3	49.3	928
中学生	39.5	39.2	39.6	15.7	15.5	13.0	44.8	45.4	47.4	1,509
高校生	42.0	42.9	46.0	30.4	23.2	21.5	27.5	33.9	32.6	1,684

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む

＜参考＞保護者の意識は？

内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査(平成28年11～12月実施)」の結果によると、フィルタリングの利用に関する保護者の回答結果は、右の表の様になっている。

	(%)			
	小	中	高	総数
フィルタリングを使っている	27.8	47.4	46.1	44.6

④ スマホ等で撮影した画像のやりとりをしたことがあるか

◆「スマホ等で自分で撮影した画像(写真・動画)のやりとりをしたことがあるか」と回答した割合(%)

<ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	同じ学校の友達との間で		違う学校の知人との間で		面識のない人との間で		n (H28対象数:人)
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	
小学生	24.6	75.4	11.0	89.0	3.0	97.0	1,704
中学生	68.5	31.5	33.1	66.9	8.5	91.5	2,302
高校生	88.1	11.9	63.0	37.0	12.4	87.6	1,684

(3) スマホなどの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性などに関する学習について

<概要>

① 夜間利用制限の状況

スマホ、ネット、ゲーム機などの利用について、「●時以降は使用しない」というルールを決めたり、ルールではないが自分で使わないよう決めている児童生徒の割合は、小学生75.5%、中学生51.2%、高校生19.3%である。

② 家庭のルールの有無

スマホなどの利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小学生60.0%、中学生47.1%、高校生20.4%であり、平成26年度と比べて、すべての校種で増加している。

③ 家庭のルールの内容

「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールについては、すべての校種で「使う時間」、「知らない人からのメール等に返信しない」、「他人が傷つくような書き込み等はしない」が多い。

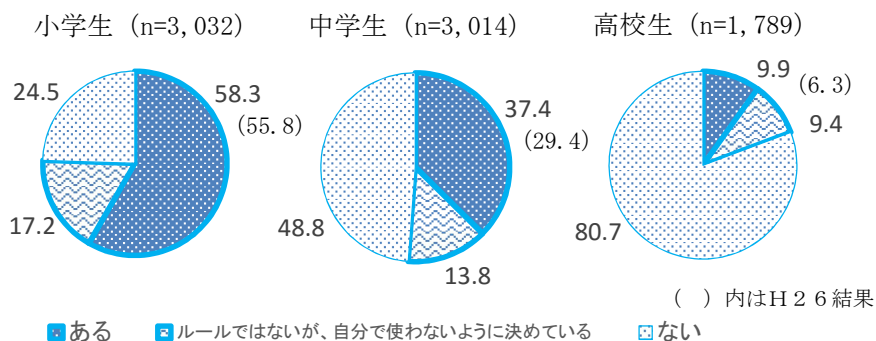
④ 危険性等の学習の状況

スマホやネットなどの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合は、小学生81.8%、中学生90.4%、高校生93.8%である。平成26年度と比べて、すべての校種で増加して、「学校で学んだ」とする割合も増加している。

① 夜間の利用制限に関するルールを決めているか

◆「●時以降は使用しない」というルールの有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>



<参考>全国の児童生徒の状況は？

内閣府公表の「青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成28年11~12月実施)の結果によると、インターネットの使い方のルールについて、「利用する時間を決めている」と回答した児童生徒は、学校種別が上がるほど少なくなっている。

	小学生 (10歳~)	中学生	高校生
利用する時間を決めている	47.0	32.3	12.4

② スマホなどの利用に関して家庭のルールが設定されているか

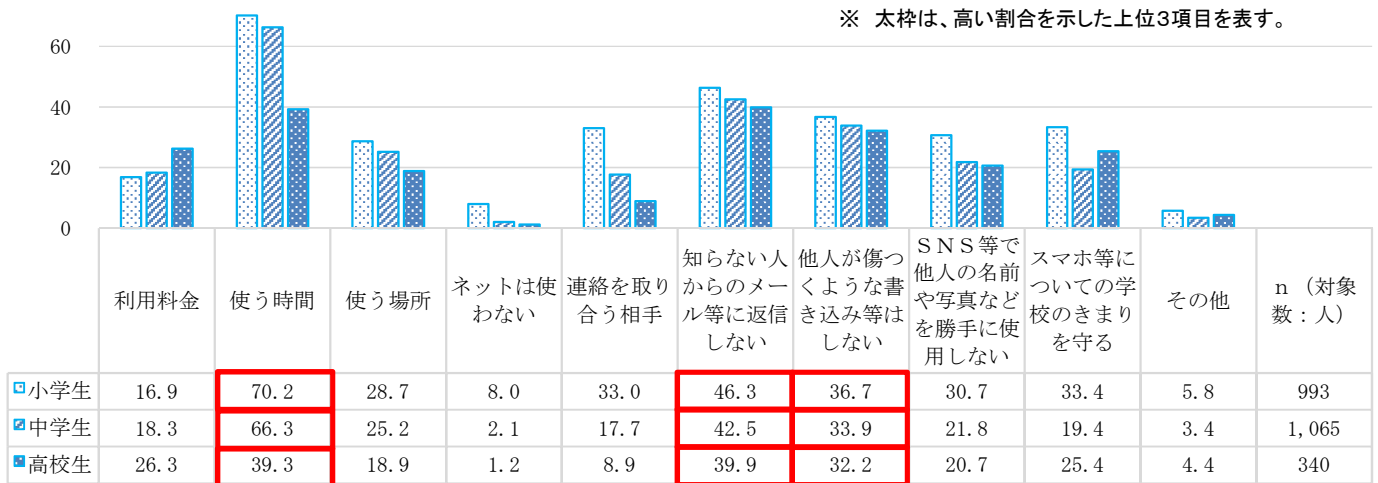
◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%) <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	ある				ない				n(H28対象数:人)
	H26	H27	H28	対H26年増減	H26	H27	H28	対H26年増減	
小学生	54.8	56.2	60.0	+5.2	45.2	43.8	40.0	-5.2	1,704
中学生	39.8	47.5	47.1	+7.3	60.2	52.5	52.9	-7.3	2,302
高校生	13.4	17.2	20.4	+7.0	86.6	82.8	79.6	-7.0	1,684

③ どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%) <スマホなどの利用に関して家庭のルールが設定されている児童生徒が回答>

※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



④ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	ある				ない				不明				n(H28対象数:人)
	H26	H27	H28	対H26年増減	H26	H27	H28	対H26年増減	H26	H27	H28	対H26年増減	
小学生	79.1	81.5	81.8	+2.7	13.6	11.9	12.6	-1.0	7.3	6.6	5.6	-1.7	3,032
中学生	88.1	89.7	90.4	+2.3	5.7	4.6	5.4	-0.3	6.2	5.7	4.2	-2.0	3,014
高校生	91.2	92.9	93.8	+2.6	4.4	3.2	3.0	-1.4	4.4	4.0	3.2	-1.2	1,789

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>

	学校で				保護者に				販売店で				n(H28対象数:人)
	H26	H27	H28	対H26年増減	H26	H27	H28	対H26年増減	H26	H27	H28	対H26年増減	
小学生	61.3	74.7	76.9	+15.6	60.1	56.8	52.6	-7.5	4.5	4.2	3.9	-0.6	2,388
中学生	91.6	93.2	95.4	+3.8	34.8	39.7	34.0	-0.8	5.2	6.3	6.1	+0.9	2,544
高校生	95.3	97.5	97.5	+2.2	15.6	21.2	18.9	+3.3	8.5	8.7	7.1	-1.4	1,594

(4) 成果と課題

<これまでの取組>

県のスマホ等の夜間使用制限の提唱に伴い、学校やPTA、市町村教委が積極的に児童生徒の主体的な活動や保護者啓発など、スマホ・ネット問題に対して総合的に取り組んできている。

- ① 児童生徒の主体的な取組の促進
 - ・「スマホサミット2016」の中・高校生の取組を収録したDVDを全公立学校へ配付
(H28実績) 参加校：中学校25校、高等学校6校
 - ・中学生がグループで目標を設定して取り組む「スマホチャレンジ100」の実施
(H28実績) 131団体（グループ）1689名参加
- ② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実
 - ・校内における指導の中核となる教員の養成研修を実施(H27～H29の3年間で全市町村実施)
 - ・校内研修プレゼン用資料の作成と各校への提供
- ③ 家庭や地域への啓発活動の充実
 - ・保護者啓発の中核となる「子ども安全安心ネットサポーター」の養成
(H28実績) 養成サポーター数70名
 - ・保護者会等でネットサポーターを活用したルールづくりに関するワークショップの実施
(H28実績) 実施回数50回
 - ・家庭でのルールづくりやフィルタリング設定等のチラシを作成し、毎学期、保護者懇談会等で直接配付
- ④ ネット依存に関する研究
 - ・県精神科医療センター等と連携し、「ネット依存チェックシート(案)」とその活用マニュアルの検討

<主な成果>

- ◆ スマホ・ゲーム機等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合は、スマホ・ネット総合対策実施前の平成26年度と比べ、すべての校種で減少した。
＜小学校＞ ㉔ 15.8 → ㉘ 15.5 ＜中学校＞ ㉔ 25.0 → ㉘ 22.5 ＜高校＞ ㉔ 39.0 → 34.6%
- ◆ 「スマホなどの利用に関して家庭のルールがある」と回答した割合は、平成26年度と比べ、すべての校種で増加した。
＜小学校＞ ㉔ 54.8 → ㉘ 60.0% ＜中学校＞ ㉔ 39.8 → ㉘ 47.1% ＜高校＞ ㉔ 13.4 → 20.4%
- ◆ 「スマホやネットの危険性について教えてもらったり、学んだことがある」と回答した割合は、平成26年度と比べ、すべての校種で増加した。「学校で学んだ」とする割合も増加した。
※ スマホやネットの危険性について、「学校で学んだ」と回答した割合
＜小学校＞ ㉔ 61.3 → ㉘ 76.9% ＜中学校＞ ㉔ 91.6 → ㉘ 95.4% ＜高校＞ ㉔ 95.3 → 97.5%

<主な課題>

- ネットやコミュニケーションサービスを利用している中・高校生のうち、約2割が嫌な経験をしたり、悩みや不安を感じたりしたことがあるという現状がある。
- 見知らぬ人と画像のやりとりをしたことがあると答えた児童生徒がおり、さらにフィルタリングの設定についての啓発や危険性に関する学習を充実させる必要がある。
- 「家庭のルールがある」と回答した割合は増加したが、依然、低調であり、ルールづくりがさらに進むよう、児童生徒及び保護者の意識を高めていく必要がある。
- 依存傾向の高い児童生徒をはじめ、スマホ等の長時間利用が課題である。
- インターネット等の利便性を活かした正しい使い方について、発達段階に応じた指導・啓発を進めることも必要である。

(5) 今後の対策 ～ スマホ・ネット問題総合対策の推進 ～

重点 目標

○スマホ等の使用時間制限に関する取組の促進（スマホ、ゲーム等を平日3時間以上利用する割合）

H26実績	小(15.8%)	H28実績	小(15.5%)	H29目標値	小(5%)
	中(25.0%)	⇒	中(22.5%)	⇒	中(10%)
	高(39.0%)		高(34.6%)		高(15%)

○家庭でのルールづくりの促進（家庭でのルールがあると答えた割合）

H26実績	小(54.8%)	H28実績	小(60.0%)	H29目標値	小(75%)
	中(39.8%)	⇒	中(47.1%)	⇒	中(70%)
	高(13.4%)		高(20.4%)		高(60%)

○フィルタリング設定に関する取組の促進（フィルタリングの設定率）

H26実績	小(48.6%)	H28実績	小(39.9%)	H29目標値	小(85%)
	中(39.5%)	⇒	中(39.6%)	⇒	中(80%)
	高(42.0%)		高(46.0%)		高(70%)

学校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】
【1,769千円】

- 『スマホサミット2017』の実施
 - ・取組を地域に広げるための協議・スマホ宣言や小学校への出前授業教材作成、学校等の取組事例集作成）・啓発活動等
 - ・成果報告会(8月)の開催 ※教職員・保護者対象
 - ・サミット参加校(中学校24校・高校11校)等の取組をホームページ上で紹介

指導・支援

教職員の指導力向上の促進

継続・強化

【教育委員会】

- 『情報モラル教育推進リーダー研修』の実施
 - ・研修講師の経験を積み、実践力に富む地域のリーダーとなる教員を養成
- 校内の中核となる教員養成研修の実施
 - ・H27～H29の3年間で継続養成、校内研修資料を提供
- スマホ・ネットに関する指導カリキュラム表の作成
 - ・発達段階に応じた、スマホ・ネットの光と影の学習、情報モラルの育成

連携

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- 『子ども安全安心ネットサポーター』の養成継続
 - ・保護者等に助言できる中核人材の養成 【282千円】
(H28まで70名養成→ H29まで100名養成)
- 養成したサポーターを活用した保護者対象のワークショップの促進・充実
 - ・正しい知識・理解、家庭でのルールづくりの促進
 - ・就学前の機会の活用等、早期からの保護者啓発強化
 - ・親育ち応援学習プログラムの活用促進
 - ・「ネット依存チェックシート(案)」の周知・普及
- 啓発チラシを作成し、毎学期、保護者懇談会等で直接配付 【702千円】
 - ・家庭でのルールづくり、フィルタリング設定の強化
 - ・保護者懇談会等で配付し、直接的な啓発を目指す
 - ・学習リーフレットの積極的な活用促進

継続

関係機関等と連携した対応

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・携帯電話事業者も参画した官民一体のフィルタリング設定促進等の取組 【男女共同参画青少年課】
- 『インターネットモラル教室』 【県警本部少年課】
- ネットパトロール 【教育委員会】

研究成果の反映

継続

ネット上のいじめ・トラブルの研究

- ネットいじめ・トラブル等の検証・検討 【教育委員会】
 - ・利用実態調査や高校等からの聞き取りの実施 【1,550千円】
 - ・課題に応じた対応策の検討
- サービス提供事業者等への提案
 - ・ネットいじめ・トラブルへの対策等に関する提案

継続・強化

ネット依存の研究

- ネット依存の未然防止や早期対応 対処の在り方について研究 【教育委員会】
【403千円】
 - ・ネット依存研究委員会による更なる研究推進
モデル校によるチェックシートの試行
「ネット依存チェックシート」とその活用マニュアルの完成